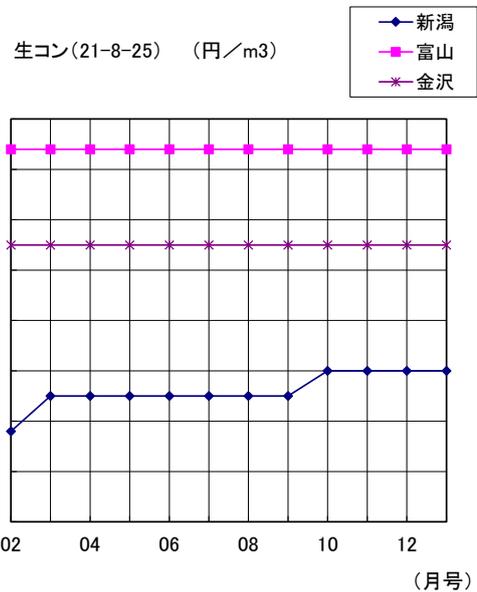
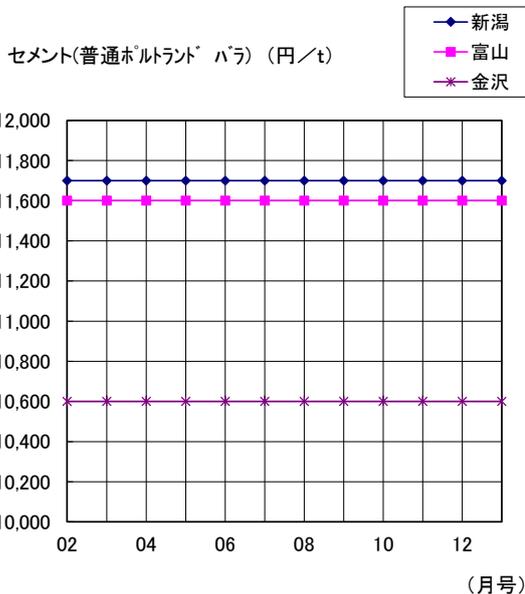


5. 主要建設資材の市況

記事提供：(一財)経済調査会 北陸支部

品目	10～12月期の状況と現況	先行き
セメント	<p>横ばい推移</p> <p>【新潟県】セメントメーカー各社は、大口需要者である新潟地区の生コンメーカーとの価格交渉を継続している。しかし、生コンクリート市況は値戻しに時間を要していることから、依然として需要者側の抵抗は強く、交渉に進展は見られない。目先、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】富山地区において、セメントメーカー各社は、値上げに向け大口需要者である生コンメーカーとの価格交渉を継続している。しかし、生コンメーカー側も、価格の改定に向けエンドユーザーと交渉中であることから、主要原材料の値上げには強い難色を示している。交渉の進展には、しばらく時間を要すると見る向きが多く、先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】セメントメーカー各社は、値上げ打ち出しの未達分の浸透に意欲を示している。しかし、コロナ禍のため、需要者側との直接交渉の機会を増やすことができないことに加え、需要者側も断続的な値上げに強い抵抗を示している。ここしばらくは、現行価格水準を横ばいで推移する公算が大きい。</p>	<p>(ハ5物)</p> <p>(新潟) </p> <p>(富山) </p> <p>(金沢) </p>
生コンクリート	<p>横ばい推移</p> <p>【新潟県】秋需期に入っても荷動きは盛り上がりを欠き、新潟生コンクリート協同組合では今年度の年間想定需要の下方修正を余儀なくされている。こうした中、同協組は2019年から打ち出している「シェア重視から価格重視」の方針を堅持し、非組合員との競合の回避を徹底している。需要者側においても価格より安定供給を優先するムードが高まりつつある。販売側では、値戻しに向けて更に売り腰を引き締めていく意向を示しており、先行き、強含みで推移する見通し。</p> <p>【富山県】富山生コンクリート協同組合では、2020年7月契約分からm3当たり1,500円の値上げを打ち出している。需要者は6月に駆け込みで契約を行ったため新規契約物件は少なく、価格交渉が本格化するまでには至っていない。需要好転の材料が乏しい中、値上げの浸透には時間を要するとの見方が大勢。先行き、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【石川県】金沢地区では、大型商業施設、図書館建設向け出荷を中心に需要は堅調に推移している。こうした中、金沢地区生コンクリート協同組合では、市況改善に向け2021年1月からm3当たり1,500円の値上げを打ち出した。同協組は需要者側との価格交渉を本格化させたい意向を示しているものの、当該地区には大手非組合工場もあるため、需要者側は当面様子見の構え。先行き、横ばいで推移しよう。</p>	<p>(21-8-25)</p> <p>(新潟) </p> <p>(富山) </p> <p>(金沢) </p>
骨材	<p>横ばい推移</p> <p>【新潟県】新潟地区への主な供給者である阿賀野川骨材協同組合では、2019年4月に打ち出したm3当たり一律300円の値上げの浸透に向け、需要者へ理解を求めている。しかし、コンクリート用骨材については、当地区の生コンクリート市況は段階的に改善しているものの、まだ下落以前の水準には戻っていないため、需要者との交渉は難航している。また、道路用砕石においても、補修工事等の小口物件が中心で、低迷する需要環境に回復の兆しが見えていないことから、依然として需要者側の反応は鈍い。先行き、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【富山県】県内の需要は、官公庁工事の減少に加え、終息しない新型コロナウイルスの影響から民間工事も減少傾向にある。このため、大口需要者の生コンプラント向けは低調に推移し、荷動きが冴えない商状となっている。メーカー各社の出荷量は減少しているものの、富山県骨材販売協同組合は需要者の指し値には応じず、現行価格水準維持に傾注している。先行き、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【石川県】県内需要は、津幡の企業造成団地や小松地区の道路拡幅・改良工事等の一部で荷動きが見られる。また、金沢地区の大口物件としては環状道路が建設中で、砕石類の納入はまだ先となるものの、生産者側は先行きの需要を見越して、強い売り腰を堅持している。先行き、横ばいで推移しよう。</p>	<p>(C-40)</p> <p>(新潟) </p> <p>(富山) </p> <p>(金沢) </p>

【価格推移】



品目	10～12月期の状況と現況	先行き
棒鋼	<p style="text-align: center;">価格上伸</p> <p>【新潟県】スクラップ価格は、海外相場にけん引され、強基調に推移した。メーカー各社は、製鋼コストの増加を背景に強気な販売姿勢を貫いたことから、販売側も売り腰を強め、価格は12月でt当たり2,000円の上伸を示した。年明け後、スクラップの海外相場は反落し、一転して調整局面に入ったと見る向きもある。しかし、仕入れコストの末端価格への転嫁に向けて、販売側に売り腰を緩める動きは見られない。先行き、売り手主導で強含みに推移しよう。</p> <p>【富山県・石川県】スクラップ市況は、海外相場が強含みに展開したことで、価格は高値寄りに推移した。これを受け、メーカー側は10月と12月に値上げを実施。販売側は、仕入れ価格の上昇による採算悪化を回避すべく、メーカーと歩調を合わせて売り腰を強めた。これにより、価格は10月でt当たり1,000円、12月に同1,000円の続伸。1月以降、スクラップ相場は反落したものの、一時的と見るメーカー各社は強気の姿勢を崩していない。また、販売側も値上がり分の転嫁が不十分として、引き続き、売り腰を強める意向。先行き、強含み。</p>	<p>(異形棒鋼)</p> <p>(新潟) ➤</p> <p>(富山) ➤</p> <p>(金沢) ➤</p>

コンクリート二次製品	<p style="text-align: center;">富山県、強含み</p> <p>【新潟県】秋口以降の工事の中止や延期の影響を受け、道路用製品の需要は冷え込んでいる。一方、春先から継続している災害復旧工事は最盛期を迎え、河川ブロックは旺盛な荷動きがみられた。メーカー側では、人件費や運搬費の上昇を背景に製品価格の見直しを検討しているが、価格交渉の機会に乏しく、コスト転嫁が進むには時間を要すると見る向きが多い。先行き、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【富山県】メーカー側では、昨年度に浸透した製品価格の値上げは、原材料費、輸送費の高騰分の転嫁としては不十分であるとして、引き続き市況の改善を目指している。メーカー各社は対象を道路用JIS製品に絞り、歩調を揃えて交渉を推し進めていることから、需要者側でも容認する動きが広がりつつある。先行き、強含みに推移する公算が大きい。</p> <p>【石川県】石川県コンクリート製品協同組合は、小型製品の値上げの実施について検討している。しかし、先行きの需要動向に不透明感が強いことから、対象製品、値上げ時期や値上げ幅など具体的なところは結論が出ていない。ここしばらくは現行価格水準を横ばいで推移する見通し。</p>	<p>(道路用製品)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➤</p> <p>(金沢) ➡</p>
------------	---	--

アスファルト合材	<p style="text-align: center;">横ばい推移</p> <p>【新潟県】新型肺炎による世界的な原油安の影響を受け、昨年6月に急落したスト・アス価格は上昇傾向にあるものの、値上がりは緩やかで急落前の水準まで戻っていない。このため、スト・アス価格が依然として安値圏にあるとする需要者側からの値引き要求が散見される一方、需要の減少から採算悪化を危惧する生産者側では、安易な値引きには応じない構えで現行価格の維持に注力している。当面、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】県内需要は、高速道路舗装工事向けに好調な荷動きが継続している。原材料のスト・アスは、輸入量の減少、原油精製量の低下から品薄な状態が続いており、価格は上昇傾向にある。販売側は、売り腰を引き締め、現行価格の維持に傾注している。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】県内では、加賀地区の合材工場において隣接県の高速道路向けに継続的な出荷が見られ、県全体の出荷量に大きく寄与している。原材料のスト・アスは、海外からの輸入量、国内の原油精製量の減少から品不足の懸念が生じている。合材メーカー各社は、上昇傾向にあるスト・アス価格のコスト転嫁を検討しているものの、具体的な動き出しにはまだ時間を要するとの見方が大勢。当面、横ばいで推移しよう</p>	<p>(粗粒-20)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➤</p> <p>(金沢) ➡</p>
----------	--	--

【価格推移】

